

※9月9日(月)正午12:00情報解禁※

ストーリー・コンサート

『クララ-愛の物語-』

2019年12月、上演決定!

読売交響楽団チェリスト**渡部玄一**が織り成す
本格的な演奏と朗読劇の新たな融合!
水夏希、**新納慎也**の出演決定!!

平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

この度、12月12日(木)よみうり大手町ホールにおいて、ストーリー・コンサート『クララ-愛の物語-』を上演する運びとなりました。この作品は世界的に有名なドイツの2人の天才作曲家ロベルト・シューマンとヨハネス・ブラームスと彼らを愛し、支えたクララ・シューマンの物語を読売交響楽団のチェリスト**渡部玄一**が生み出した本格的な演奏と朗読で構成したかつてないスタイルの公演です。

二人の天才をこよなく愛したクララの人生を、朗読者によるものがたり、そしてソプラノ、ヴァイオリン、チェロ、ピアノの4人の奏者によって奏でられるシューマンとブラームスの数々の名曲との融合で編み出された本作を渡部玄一は“ストーリー・コンサート”と名付けました。昨年長野県上田市において初演し、大変大きな反響と多くのお客様より再演へのご要望を頂きました。

そして今回、待望の東京公演が実現となりました。前作をさらにブラッシュアップし、クララ、シューマン、ブラームスの3役を朗読者2名で演じ分けます。クララを演じるのは元宝塚男役トップスターの**水夏希**。退団後も確かな表現力でミュージカルをはじめ、様々な舞台で活躍しております。そしてシューマン、ブラームスの2役を演じるのは数々のTV、舞台、そしてミュージシャンとしても精力的に活躍をみせている**新納慎也**です。音楽と愛に命を懸けた3人の壮大な半生をよりドラマチックに演じ、音楽と演劇が融合して編み出されるかつてない公演となります。

クララは厳格なピアノ教師フリードリッヒ・ヴィークの次女として生まれ、ピアニストとしてその才能を開花させながらも、シューマンの妻として共に愛し合い、支え合い、そしてブラームスとは生涯に亘り、崇高な結びつきで共に人生を歩みました。クララとシューマン、そしてブラームス。才能たちが出会い、愛し合い、そして音楽に命を懸けた3人のものがたりは今なお、輝かしい光を私たちに放ち続けています。

2019年はクララ・シューマンが生まれて200年にあたります。その記念すべき年に上演されることとなり、上質の演奏と演劇のコラボレーションによって、より多くのお客様にクラシック音楽を楽しんで頂ければ幸甚でございます。ぜひ皆様に本作へのお力添えを賜りたく存じます。何卒ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

ものがたり

1819年9月13日、ピアノ教師フリードリッヒ・ヴィークの次女としてクララは生まれました。クララは幼少の頃より、ピアニストの才能を発揮し、天才少女としてその名は広まりました。やがてヴィーク氏は一人の青年を弟子にとります。青年の名前はロベルト・シューマン。大学で法律家を目指しますが音楽の道を諦めきれず、ピアニストを目指します。しかし、指のケガがもとで断念、作曲家を目指すようになりました。やがてクララとロベルトは互いに愛し合いますが、これに気付いた気難しく厳格なヴィークは二人を遠ざけます。ヴィークの二人に対する誹謗中傷はさらにエスカレートし、ロベルトはヴィークを名誉棄損で訴えます。そして2人結婚を許可する判決が下り、晴れて2人は結婚しました。

2人が結婚して13年の歳月が経ちました。そしてクララはピアニスト、ロベルトは作曲家として確固たる名声を手に入れました。2人はお互いに支え合ってきましたが、ロベルトは疲労から神経が衰弱していき、外部との接触を拒むようになりました。さらに病状は悪化し、彼の名声は落ちる一方でした。そんな中、知人の紹介で訪問してきた若きヨハネス・ブラームスが自作のソナタをピアノで弾き始めると、ロベルトの顔に喜びの光が射しました。ロベルトはヨハネスのために「新しい道」と題した論評を発表しました。ロベルトの厚意に深く感謝したヨハネスは、彼の最も忠実な弟子となり、シューマン一家に明るい日差しを持ち込んだかのようなのでした。しかしロベルトの心の病は、密かに肥大していったのでした。

1854年2月、ロベルトはライン川に身を投げました。数年来、ロベルトを悩ませていた幻聴がいよいよ耐え難いものとなり、その後、療養施設に収容されました。知らせを聞いたヨハネスは急いで駆け付け、身重だったクララとシューマン家を助けました。こうした中でヨハネスとクララの距離は縮まり、2人の間には好意以上の感情が芽生えました。入院の2年半の間、ロベルトはあれほど愛していたクララとの面会を頑なに拒みました。次第に自分を失い、時として獣のようにわめき散らす自分の姿を見せたくなくなかったのかも知れません。病院から危篤の知らせが届くと、クララは2年半ぶりに愛する夫の元に駆けつけました。そして不自由な体でクララを抱きしめるのでした。クララが到着した日から翌々日、ロベルトは永遠の眠りにつきました。

ヨハネスはその後、ヨーロッパを代表する大作曲家となりました。またクララも演奏家としてその名声を不動のものとしていきました。2人は強い愛情で結ばれ、時には夫婦のように、家族のように、また同志として、ロベルトの死後40年にわたって絆を深めていったのです。そんな2人にもやがて別れの時が訪れるのでした。

曲リスト

第1部 ロベルト

- シューマン 「あなたに初めてお会いして以来」
歌曲集『女の愛と生涯』作品 42-1 詞：シャミッソー（ソプラノ、ピアノ）
- 幻想小品集 作品 73-1（チェロ、ピアノ）
- 交響的練習曲より viii（ピアノソロ）
- 「クライスレリアーナ」より第1曲（ピアノソロ）
- 「ウィーンの謝肉祭の道化」よりインテルメッツォ（ピアノソロ）
- 「献上」 歌曲集『ミルテの花』作品 25-1 詞：リュッケルト（ソプラノ、ピアノ）
- 「くるみの木」 歌曲集『ミルテの花』作品 25-3 詞：モーゼン（ソプラノ、ピアノ）
- ブラームス ハンガリー舞曲 第5番（ヴァイオリン、チェロ、ピアノ）

第2部 ヨハネス

- シューマン 「トロイメライ」『子どもの情景』作品 15-7（チェロ、ピアノ）
- ブラームス 「エドヴァルト」 ピアノ曲『四つのバラード』作品 10-1（ピアノソロ）
- 「永遠の愛について」 歌曲集『四つの歌』作品 43-1 詞：ヴェンツィヒ（ソプラノ、ピアノ）
- ヴァイオリンソナタ第2番イ長調 第1楽章（ヴァイオリン、ピアノ）
- ピアノ三重奏曲第1番ロ長調 第1楽章（ヴァイオリン、チェロ、ピアノ）

※曲目は変更になることがあります。

出演

<キャスト>



水 夏希



新納慎也

<演奏>



渡部玄一



岡田 愛



鷺見恵理子



白石光隆

公演概要

【作品名】

ストーリー・コンサート『クララー愛の物語ー』

【構成・演出】

渡部玄一

【出演】

◇出演

水 夏希(クララ役)

新納慎也(シューマン／ブラームス役)

◇演奏

岡田 愛(ソプラノ)

鷺見恵理子(ヴァイオリン)

渡部玄一(チェロ)

白石光隆(ピアノ)

【会場】

よみうり大手町ホール

2019年12月12日(木) 14:00開演 / 18:00開演

【HP】

<http://www.tokyo-eg.com/>

(東京アンサンブルギルド HP)

【一般発売】 2019年10月12日予定

【お問い合わせ】 MItt

TEL:03-6265-3201(平日 12:00-17:00)

【主催・製作】東京アンサンブルギルド インプレッション

【取材に関するお問い合わせ】

インプレッション 正川

TEL:03-6869-3773

携帯:090-1530-0773